



経営ワンポイント情報「不易流行」

by 目加田博史

最高の1年、甲午（きのえうま）！

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。今年4月より建設マネジメント倶楽部を発足させ、建設業界の成長路線を支援してゆきます。

さて、今年干支でいえば甲午（きのえうま）の年です。干支は十干（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸　こうおつへいていぼきこうしんじんき）で、年ごとの循環ステップを表し、十二支（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）は陰陽のエネルギーの循環を意味します。その組み合わせが干支で最初に甲子→乙丑→丙寅という風に干と支を組み合わせると60通りできます。本当は120通りになるはずですが、60通りになるということは、組合せのない干と支が60通り有ることです。

今年の甲は一番最初にくる縁起の良い干で、訓でよむと、「きのえ」となりますが、これは木の兄の意味です。本来の意味は草木の芽生えを含意しており、それまでの地ならしが終わり、種が成長し、芽を出そうという時期です。これから次第にエネルギーを貯め込み、枝葉を茂らせてゆくスタートに当たります。午は訓で読むと「うま」となりますが、午前→正午→午後という風にエネルギーのピークの時です。

60年前の甲午は1954年です。1954年といえば、戦後の高度成長の走りともいえる「神武景気」（1954年12月～1957年6月 31か月）が始まりました。家庭の電化が進み、団地族が出現し、「もはや戦後ではない」という名言もこのころ生まれています。先の大戦の敗戦で自信をなくしていた日本が、復興・成長を確信した年でもあります。運気が盛んになること間違いありません。干支で世の中が動いているわけではありませんが、太古からの天地自然の循環から法則性を見出してシス

テム化したのが干支ですので、参考にする価値は大いにあります。

ちなみに去年は癸巳（みずのとみ）で、癸の意味は「水の弟：不要となった残物を清算・整理し、地ならしをしてこれからの新たな成長の準備をして待機する」状態で、ゼロベースにする段階です。巳は陽のエネルギーが充実してその極に達するときです。安倍政権が発足し、今までのシステムの不具合をアベノミクスで一気に整理し、運気を貯め込み、成長の準備をしたといえます。

今年準備された成長戦略が陽エネルギーとともに一気に花開く時です。うまく成長軌道に乗りましょう。

また来年は乙未（きのとひつじ）で、乙の意味は「木の弟：種から芽が出てもまだまだ伸びずにかがんでいる段階」です。未は次第に陰エネルギーに支配されてゆく気配が出てくることを意味しています。

これらの天地自然のエネルギーの法則を経営に取り込むならば、お盆までの間に、打つべき手をしっかりと打って次の陰エネルギーをうまく生かして成長路線をキープする必要があるといえます。

これらはあくまでも私の主観的・経験的な感想ですので、当たるも八卦当たらぬも八卦で、聞き流してください。

今年もよろしくお祈りします。

株式会社目加田経営事務所

<http://21cmc.jp>

那覇 〒900-0014

那覇市松尾 1-18-22 8階

TEL098-864-0331

FAX098-860-3416

京都 〒603-8478

京都市北区大宮釈迦谷 4-10

TEL075-334-5105

FAX075-493-8305

好きなもの「えがお」

得意ワザ「見える化」技術

嫌いなもの「現状維持」

2日間の「マルミエ診断」受付中！！

お電話ください。098-864-0331

Email : mec@mekata.co.jp